

マツダが目指す自動車の未来像

MAZDA CO-PILOT CONCEPT 全ての人に「走る喜び」を永遠に提供し続けるクルマ作りと目指す社会

モノづくり日本会議は3月23日、新モビリティ研究会としてマツダの板岡孝宏MAZDA CO-PILOT CONCEPT技術主査によるオンラインセミナー「マツダが目指す自動車の未来像 MAZDA CO-PILOT CONCEPT」を開催し、全ての人が「走る喜び」を永遠に提供し続けるクルマ作りと目指す社会を開いた。移動や運転する楽しさを提供するためのクルマづくりの姿勢や、ドライバーの異常を検知して安全に停車させる高度運転支援などの技術を紹介した。

MAZDA CO-PILOT CONCEPT技術主査

板岡 孝宏氏



■心豊かな社会

マツダのブランドの核は「走る喜び」である。自動車を自ら運転することで元気になる。そのためには人間中心の考えに基づいてクルマづくりを行っている。車を通じて移動や暮らしに楽しさがある。笑顔に満ちた心豊かな社会を目指している。

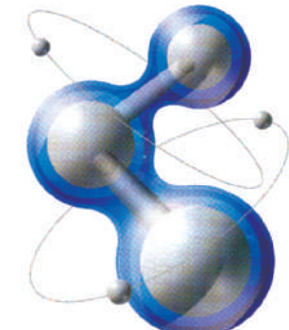
コロナ禍で社会は大きく変化した。車は安心安全でパーソナルな移動手段であり、その価値をより高めるべきだと気づいた。対話や外出のきっかけが減る中で、人間らしい感覚を取り戻すニーズも強まっている。そのため、人と人が集い心を通わせることで得られる喜びを多くのお客さま

マツダは2017年に公表した技術開発の長期ビジョン「サステイナブル・Zoom-Zoom宣言2030」で、車の持つ価値により人の心を元気にすることを追求し続けるとうたった。車が本来持つ效用の中に「楽しく操縦することによる心や体の活性化」があることと捉え、ハンディなく世界中どこでも行ける車の開発を目指している。

■滑らかな走り

開発したMX-30はアクセルリングと手動ブレーキで構成。リングの押し込みにより駐車場から出る時などはゆっくり、幹線道路に出た時は流れに乗って走れる。ブレーキは肘を支点としてスムーズに操作できる。移乗ポートを使い車いすから楽に乗り込める。家族や友人と旅行などに行く際も運転を交代できるような一般操作の切り替え機能を設けた。EV(電気自動車)モデルを選択するとより滑らかな走りを楽しめるほか、給油時の苦労から開放される。

安全性性能追求 ■ 高度運転支援



モノづくり日本会議 新モビリティへの挑戦

マツダは障がい者の活躍推進に取り込む国際イニシアチブ「The Valueable500」に加盟している。車の持つ「全ての人が全ての地域で自由に移動できる」力で、障がい者一人ひとりの自立した生活につながる支援を行い、誰もが平等に参画できる社会の実現に向けて貢献していきたい。

■自然に姿勢制御

マツダはドライバーが安全運転できる状態を最大限確保し、事故リスクを抑制する安全思想「MAZDA PROACTIVE SAFETY」に沿って技術開発してきた。その進化の第1段階となるのが基本安全技術だ。

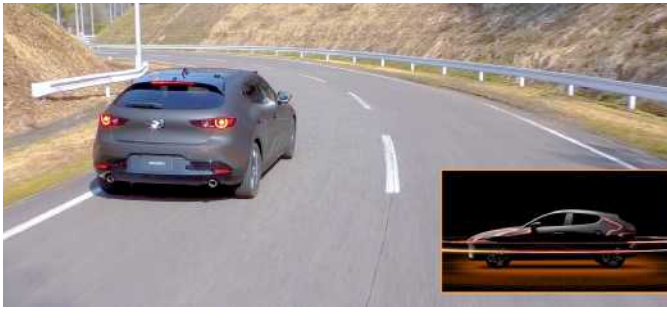
■最高ランク評価

技術の積み重ねの結果、マツダは世界各国の安全性評価で最高ランクの評価を受けている。一方で急な体調変化に伴う事故の95.8%が時速60km/h以下で発生している現実がある。高齢ドライバーの体調急変により重大事故も社会問題となっている。事故ゼロの達成には運転支援技術の高度化や改善、工夫が必要とされる。

■自然に姿勢制御

マツダは22年以降にドライバーの状態を検知し、走行状態の保持、減速停止の作動、車内外への報知、緊急通報を連動させ、高速道路や一般道でも安全を確保できるように支援する。25年以降は体調不良などの予兆を検知し、安全に回避する技術を進化させる。

マツダは22年以降にドライバーの状態を検知し、走行状態の保持、減速停止の作動、車内外への報知、緊急通報を連動させ、高速道路や一般道でも安全を確保できるように支援する。25年以降は体調不良などの予兆を検知し、安全に回避する技術を進化させる。



ドライバーの異常を検知してハザードとブレーキランプを点滅、ホーンで周囲に知らせるマツダ提供



周囲の車の流れを乱すことなく徐々に減速(同)

最新技術で人の心を元気に

「企業価値革新検討会」を開始

報告書、イノベーション手法などを多角的かつ具体的に検討する。

まず大きな柱とするのは、企業のサイバースペースへの対応だ。近年、グローバル企業への直接攻撃はもとより、サプライヤーである中小企業を踏み台として、大企業へ脅威を与えるサイバー攻撃も起きている。国内では2020年、

・サイバーリスク対策

・Z世代と環境を考える

各方面からの講師を招き、5月11日から3週連続で開催するオンラインセミナーを開いて経営層の理解を深める。同セッションは「サイバースペース」の原則を踏まえて具体的なサイバースペース対策を示す。経営層が自ら実行するよう促す。また、サイバースペースの基礎を理解するための内容を、テュフ・ライランド、ジャパンによるセミナーも開催した(神奈川産業人クラブ共催)。

オンライン中心に開催

「常若産業甲子園」を始める。環境への取り組みや、1990年の絆を考える活動「常若産業甲子園」について5月13日のオンラインセミナーで紹介する。常に若

経営層の理解深める

「常若産業甲子園」を紹介。甲子園は全国の小学生と高校生が将来の抱負を語り、大人がエールを送るドキュメンタリー映像を制作して発信するもの。今回は環境問題への取り組みや、Z世代から社会人まであらゆる世代の人材育成を見つめ直すことで、企業の価値がいかにあるべきかについて探求する。

「常若産業甲子園」を紹介

甲子園は全国の小学生と高校生が将来の抱負を語り、大人がエールを送るドキュメンタリー映像を制作して発信するもの。今回は環境問題への取り組みや、Z世代から社会人まであらゆる世代の人材育成を見つめ直すことで、企業の価値がいかにあるべきかについて探求する。

お問い合わせ モノづくり日本会議 TEL.03-5644-7608 FAX.03-5644-7209 e-mail: buhin@media.nikkan.co.jp

モノづくり部品大賞

2022年3月1日～6月30日

発表 10月(予定) 贈賞式 11月(予定)

応募方法 ウェブページからダウンロードしてください。本賞の専用ウェブページ(https://award.cho-monodzukuri.jp/)からPDF、Word形式でダウンロードいただけます。

表彰 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、賞金を贈呈します。

「部品賞」の中で特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。選定の「部品大賞」には賞金30万円、「部品賞」には賞金10万円を贈ります。「部品大賞」など特に優れた部品を対象に、開発企業の思いや部品の特徴を紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映します。

主催: モノづくり日本会議 / 日刊工業新聞社
後援: 経済産業省 / 日本商工会議所 / 日本経済団体連合会(予定)

https://award.cho-monodzukuri.jp/ 部品大賞